

沖縄県英語教育改善プラン

実施内容

1 英語教育の状況を踏まえた目標												
【小学校】												
校種	指標内容	2018		2019		2020		2021				
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値			
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)	/	/	/	/	80.0%	/	90%			
		公表(%)	/	/	/	/	80.0%	/	90%			
		達成状況の把握(%)	/	/	/	/	80.0%	/	90%			
【中学校】												
校種	指標内容	2018		2019		2020		2021				
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値			
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	98.0%	92.5%	98.0%	98.6%	100%	/	100%			
		公表(%)	70.0%	16.3%	50.0%	20.7%	50.0%	/	60.0%			
		達成状況の把握(%)	98.0%	49.0%	60.0%	44.8%	60.0%	/	70.0%			
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80.0%	69.3%	75.0%	72.3%	75.0%	/	75.0%				
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3回	3回	3回	3回	3回	/	3回			
		ライティングテスト(回)	2回	2回	2回	2回	2回	/	2回			
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	73.0%	78.7%	80.0%	79.8%	83.0%	/	83.0%					
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	51.5%	55.0%	53.0%	55.0%	/	55.0%					
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	37.3%	45.0%	34.5%	37.0%	/	37.0%					
【高等学校】												
校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
		公表(%)	30.0%	18.6%	40.0%	20.4%	50.0%	/	60.0%	70.0%		
		達成状況の把握(%)	50.0%	47.7%	60.0%	60.2%	70.0%	/	80.0%	90.0%		
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)		60.0%	55.9%	60.0%	51.9%	60.0%	/	60.0%	60.0%		
		③パフォーマンステストの実施状況	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3回	1.8回	3回	2.6回	3回	/	3回	
				コミュニケーション英語Ⅱ	3回	1.5回	3回	1.8回	3回	/	3回	3回
	コミュニケーション英語Ⅲ			3回	1.5回	3回	1.5回	3回	/	3回	3回	
	英語表現Ⅰ		5回	2.6回	5回	2.2回	5回	/	5回			
			英語表現Ⅱ	5回	3.7回	5回	3.5回	5回	/	5回	5回	
			ライティングテスト(回)	5回	1.3回	5回	2.2回	5回	/	5回		
	○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	5回	1.3回	5回	2.2回	5回	/	5回			
		コミュニケーション英語Ⅱ	5回	1.7回	5回	1.8回	5回	/	5回	5回		
		コミュニケーション英語Ⅲ	4回	1.6回	4回	1.7回	4回	/	4回	4回		
		英語表現Ⅰ	5回	2.0回	5回	2.3回	5回	/	5回			
		英語表現Ⅱ	5回	2.9回	5回	2.6回	5回	/	5回	5回		
		英語表現Ⅲ						/		3回		
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									
			英語コミュニケーションⅡ									
			英語コミュニケーションⅢ									
		論理・表現Ⅰ									5回	
			論理・表現Ⅱ									
論理・表現Ⅲ												
○ライティングテスト(回)		英語コミュニケーションⅠ										
		英語コミュニケーションⅡ								5回		
		英語コミュニケーションⅢ										
論理・表現Ⅰ									5回			
	論理・表現Ⅱ											
	論理・表現Ⅲ											
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75.0%	61.2%	75.0%	63.1%	75.0%	/	75.0%	75.0%				
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	78.0%	77.4%	80.0%	82.8%	83.0%	/	85.0%	90.0%				
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	52.0%	46.3%	54.0%	44.3%	50.0%	/	50.0%	50.0%				

2 沖縄県における英語教育の課題

【小中学校】

【英語教育実施状況調査から】

校種	指標内容	2018		2019		
		目標値	達成値	目標値	達成値	
中 学 校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	98.0%	92.5%	98.0%	98.6%
		公表(%)	70.0%	16.3%	50.0%	20.7%
		達成状況の把握(%)	98.0%	49.0%	60.0%	44.8%
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80.0%	69.3%	75.0%	72.3%	
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3回	3回	3回	3回
		ライティングテスト(回)	2回	2回	2回	2回
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	73.0%	78.7%	80.0%	79.8%		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	51.5%	55.0%	53.0%		
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	37.3%	45.0%	34.5%		

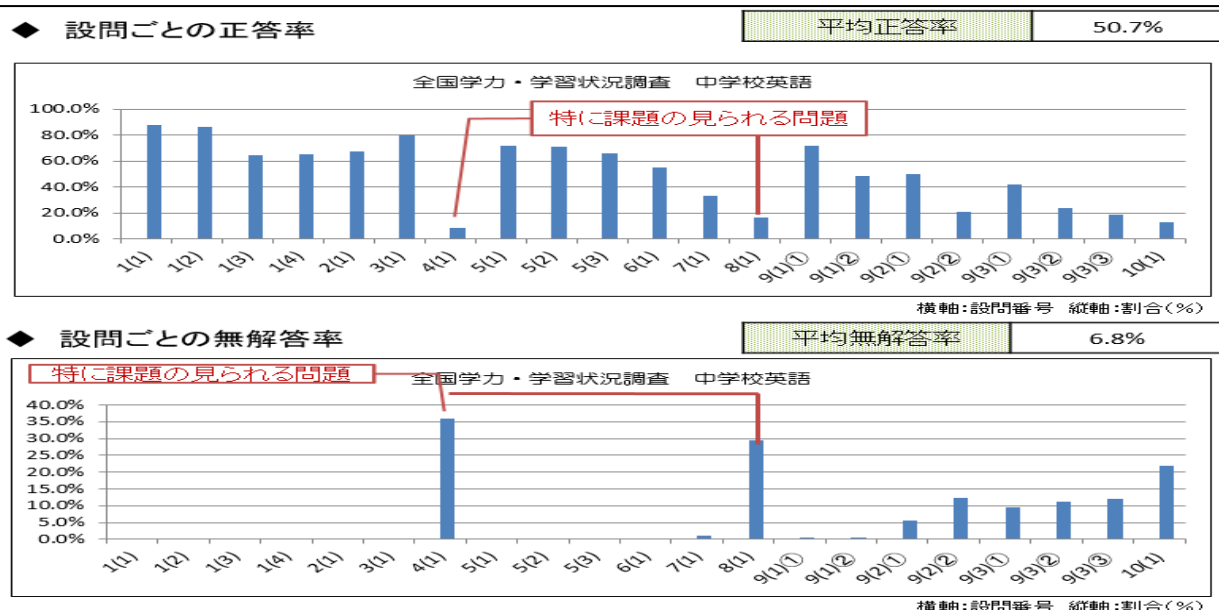
2019年度の「英語教育実施状況調査」から見られる本県の大きな課題は、目標管理書に示されているとおり、中学校の①「学習到達目標の整備状況」、②「生徒の授業における言語活動の時間の割合」及び③「求められる英語力を有する生徒の割合」の低さである。

①「学習到達目標の整備状況」においては、「公表」の値が低いこともあるが、特に課題なのは、確実な把握が必要な「達成状況の把握」の値が、44.8%であり、全国平均よりも5.1ポイント低い結果である。これは、CAN-DOリストを作成しているが、活用に至っていないことが推測できる。このことから、多くの教師が授業や単元の目標を明確に持たずに、授業を行っていることが考えられる。実際に、学校訪問での授業参観を行っても、めあては設定しているが、言語活動やまとめと正対していない授業が多く見られる。これは、適切な評価規準や身に付けさせたい力等のゴール設定を明確に設定していないため、授業や単元において、目標到達までどのように授業の中でアプローチしていくかという教師の視点が弱いと考えられる。

この視点の弱さが、②「生徒の授業における言語活動の時間の割合」の低さにも影響していると思われる。本県では、「生徒の授業における言語活動の時間の割合」が72.3%と、全国平均より6.7ポイント低い結果となっている。「指導と評価は一体である」という理解が低いと、目標到達に向けた授業計画や単元計画を立てる力が弱く、単に教師が教科書の内容を教え込むだけの授業になりがちになり、結果的に生徒が言語活動を行う時間が十分に確保されていないと考えられる。

この①と②の取組の弱さが、③「求められる英語力を有する生徒の割合」の伸びない要因になっていると考えられる。不明確な目標設定、それに伴う言語活動の少なさ、その結果生徒の英語力が伸びないというスパイラルとなっていると考えられる。

【全国学力・学習状況調査から】



2018年度に行われた全国学力・学習状況調査の問題において、大問4と大問8の問題に特に課題が見られた。(大問4:正答率9.1%、誤答率54.9%、無解答率36.0%・大問8:正答率16.4%、誤答率54.1%、無解答率29.4%)2つの問題は、聞いたり、読んだりしたことについて、自分の意見を書く問題である。無解答率が高いのは、授業の中で自分の意見や考えを表現する機会が少ないためと捉えられる。

よって、本県では㊦単元や授業の目標設定、㊧目標到達の見取り方、㊨目標到達のための授業改善、の手立てが必要であると考え。そのため、過年度まで行っていた研修会を「教師の英語力向上」から、「目標到達へ向けた教師の指導力向上・授業改善」へと内容を変更する。過年度においても、英語の研修会を行ってきたが単発的であったため、効果的では無かった。そこで、その研修会を複数回にし、そこに繋がりを持たせる研修会を行うこととする。

(小中連携)

2019年度「英語教育実施状況調査」において、小中連携の取組の割合が、77.2%であり、全国平均より4.8ポイント低い。これは、市町村教育委員会や学校間の独自の取組に頼り、県からの具体的な施策を示していなかったことが考えられる。中学校の学力向上は、小学校との連携が必須であるため、この取組についての手立てを検討するための組織的な体制を作る必要がある。

(その他)

小学校外国語に係る小学校教諭の指導力についても、教師間で差が見られる。

また、小学校英語専科教員についても、評価や教科書の活用について、地域差が見られる。このことから、小学校教諭と小学校英語専科教員を対象とした研修会が引き続き必要である。

加えて、本県教諭は、自分が所属している校種しか目を向けない近視眼的な傾向が見られる。英語教育は、小中高と繋がっていることを意識させる必要がある。そのため、義務教育課の取組だけではなく、県立学校教育課や教育センターと連携しながら取組を推進していく必要がある。

【高等学校】

高等学校においては、英語教育改善プランで設定した目標設定値について2019年度の結果は対前年度比で全体的に漸進的な改善が見られた。

改善方向にある項目は、「①求められる英語力を有する英語担当教員の割合」「③学習到達目標の整備状況」「⑤パフォーマンステストの実施状況」「⑥英語担当教員の授業における英語使用状況」「⑧英語担当教員に対する研修実施回数」である。一方、「②求められる英語力を有する生徒の割合」「④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」「⑧英語担当教員に対する研修の受講者数」については、2019年度の結果は前年度を下回った。

「指導と評価の一体化」に関する理解を進めながら英語教育改善プランの設定目標の改善を図り、生徒の英語力向上につなげたい。

(2020年度の高等学校の取組)

(1).英語担当中高連携研修会

実施方法:ビデオ・オンデマンド研修。研修参加者は、研修期間中に学校が所在する地区の研修ビデオを視聴し、研修内容に関するアンケートに回答する。

研修期間:令和2年10月26日(月)～12月18日(金)

対 象:市町村立中学校・県立中学校・県立高等学校英語担当教諭(各校より1名)

研修内容:各地区の研修協力校において撮影した授業、指導助言等

成果と課題:

- ・オンデマンド研修により学校業務への影響を軽減できた。
- ・従来の研修形態では参観できる授業が所属地区のみだったが、オンライン研修なので全6地区の授業を見ることができた。
- ・新しい実施方法であったことから、技術的なトラブル等への対応が必用だった。

(2) 英語授業マイスター発掘プロジェクト

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、今年度の新規募集は中止したが、代替事業を実施した。

代替事業: 英語小中高大連携オンラインシンポジウム

対 象: 市町村立小・中学校、県立中学校・県立高等学校英語担当教諭(任意参加)

実施方法: Microsoft Teams を使用したビデオ・オンデマンド形式で実施。参加者は、配信期間中にビデオを視聴し、アンケートに回答する。

配信期間: 令和2年12月10日(木)～令和3年2月26日(金)

内 容: 県内の小学校・中学校・高等学校・大学の英語教育連携に関する課題を協議し、校種間の連携強化を図り、これからの英語教育の充実に資することを目的に、過去に認定された英語授業マイスター及び英語教育専門家によるシンポジウムを県内小・中・高等学校にオンデマンド配信する。

成果と課題:

- ・過去に認定された英語授業マイスター、大学教授等による報告、協議により、新型コロナウイルス感染症をめぐる各校種の置かれた状況や対応事例等について共有できた。

(3) 英語でお仕事プログラム

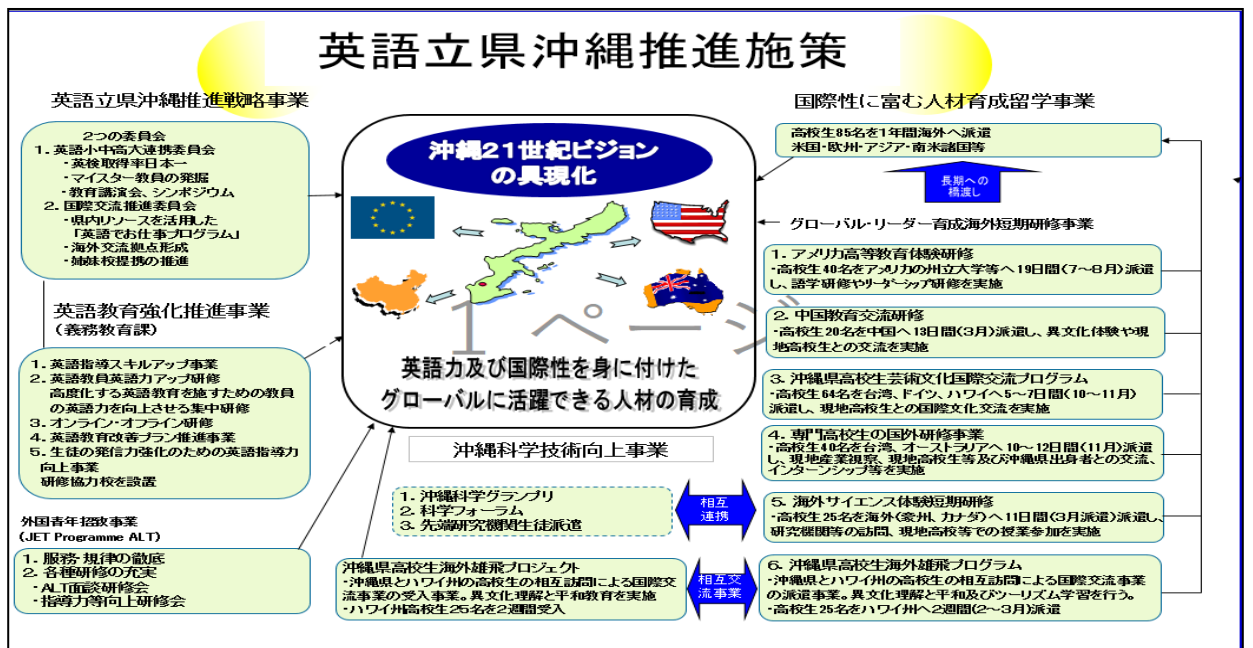
新型コロナウイルス感染症流行の影響により、今年度のイベント開催が中止となったため、事業目的の実現につながる代替的な取組を実施。

代替事業概要: 県内において国際的な仕事を行う地域人材等を訪問して業務の様子やインタビューを撮影した映像を、県内中高生を対象にビデオ・オンデマンドで公開し、本県におけるグローバル人材の活躍の場が広範な職業にあることを紹介し、本県生徒の進路意識や英語学習意欲の向上を図る。

映像配信方法: Microsoft Teams または YouTube 等により、県内中学校・高等学校に限定公開する。

3 課題に対する対策の実施

(研修体制の概要)



【小中学校】

(1)で挙げた本県課題への手立てとして、令和3年度から次の研修会や取組を行うことを予定している。

①中学校英語 STEP UP 研修会

【目的】「指導と評価の一体化」の理解と実践的な取組を通して、評価規準設定、定期テスト・単元テストの作成の知識・技能を向上させ、授業改善を図る。

【対象】 中学校教諭

【内容】 テスト作成や評価についての講義とワークショップ。県内各地区(6地区)で年間2回実施。第1回と第2回の研修会に繋がりを持たせ、各学校の評価やテスト改善を図る。

- ① 第1回は、大学講師等による講話とテスト作成や評価のワークショップを実施する。(4月～5月)
- ② 第1回研修会で学んだことを生かして、各学校でテストを作成・実施し、授業改善を図る。(6月～9月)
- ③ 第2回は、各校で作成したテスト及び生徒の変容等の成果を持ち寄り、情報共有する。(10月～11月)
- ④ 優れた評価規準設定、テスト及び成果を、教育事務所の担当主事が域内に研修会や校内研等で周知する。最も優れたものは、県のHPにアップする。(12月～1月)

【仮説】「指導と評価の一体化」の理解が進むことにより、定期テスト・単元テストを「見取りたい力」を図る効果的なテストを各学校で作成をすることができる。そのゴールから Backward Design 的に授業の単元計画や必要な言語活動等を考えることにより、授業改善の促進が期待できると考える。

②授業力アップ研修会

【目的】 理論研と授業参観により、教員の指導力向上を図る。

【対象】 中学校教諭

【内容】 全国学力・学習状況調査の分析に基づいた文部科学省学力調査官による講話と、授業実践。県内各地区(6地区)で年間2回実施。第1回と第2回の研修会に繋がりを持たせ、授業改善を促進する。

- ① 第1回は、学力調査官による講話と理論研。(5月～6月)
- ② 第1回研修会で学んだことを生かして、各学校で授業改善を図る。(6月～10月)
- ③ 第2回は、代表授業による授業観察と学力調査官からの指導助言に加え、代表授業についての研究協議を行う。(10月～11月)
- ④ 優れた代表授業者の指導案や各学校の報告書は、教育事務所の担当主事が域内に研修会や校内研等で周知する。最も優れたものは、県のHPにアップする。(12月～1月)

【仮説】 第1回の理論研、第2回の代表授業の実践、協議と繋がりを持たせることにより、研修会が効果的になり、より授業改善に繋がると期待できる。

③小学校スキルアップ研修会

【目的】 小学校教諭の指導力と英語力向上を図る。

【対象】 県内小学校全教諭(5年計画で実施)

【内容】 英語教育推進リーダーや小学校英語専科を講師とし、学習指導要領、評価、効果的な教科書の活用や指導方法の理解とワークショップ

【仮説】 質の高い授業実践を行っている英語教育推進リーダーや小学校英語専科教員から実践的スキルを学ぶことにより、小学校教諭の指導力も向上すると期待できる。

④小学校英語専科教員連絡協議会

【目的】 小学校英語専科教員のスキルアップを図る

【対象】 小学校英語専科教員

【内容】 評価の研究や効果的な教科書の活用方法等の研究。他地区の英語専科との情報共有

【仮説】 情報交換や協議を持つことで、小学校英語専科の知識や指導力の向上が図られ、質の高い授業実践が期待できる。また、得られた知識・技能を所属校や近隣校の校内研修会等で波及することにより、県内全体の小学校外国語教育の向上するであろう。

⑤オンライン研修会

【目的】 離島勤務の小中学校の教員の指導力向上と次のリーダ育成を図る。

【対象】 小中学校の教員

【内容】 文部科学省から委託業者のオンライン研修

【仮説】 質の高いオンライン研修会を通して、特に離島勤務教諭を受講させることにより、研修会の参加の機会が少ない離島勤務教員の指導力向上を図られ、本島内教員と離島教員との指導力向上の差が縮まると考えられる。その結果、生徒の英語力が地域差に関わらず向上すると期待できる。

⑥その他の取組

県立学校教育課と連携し、小中の連携のみならず中高連携研修会を実施し、英語教育を単独の校種だけで捉えるのではなく、小中高の繋がりを意識させる研修会を実施する。

また、ALT等の研修会に、小中の英語教育についてのワークショップ等を開催し、効果的なALT活用を目指す。

《県立学校教育課と連携事業》

・高校入試説明会

【目的】 高校入試分析の説明を基に各学校での授業改善に取り組む

【対象】 中学校教諭及び高等学校教諭

【内容】 入試分析を基に、3技能(読む、聴く、書く)の向上に繋がる高校入試のあり方についての協議。

・中高連携英語担当者研修会

【目的】 中高英語担当者の連携を通して英語教育の充実を図る。

【対象】 中学校教諭及び高等学校教諭

【内容】 県内6地区において実施する研修で、異校種の授業観察や中高教員間の意見交換等。本県英語教育の課題の共有や対応策の協議。

・英語能力判定テスト(英検 IBA)フィードバック研修会

【目的】 生徒の技能別傾向について理解を深めるとともに、今後の指導の充実に資する

【対象】 中学校教諭及び高等学校教諭

【内容】 英検協会の英語能力判定テスト(英検 IBA)の結果について、外部有識者(県内大学教授)の分析を基に、各地区の課題把握と指導の在り方を考える。

・英語小中高大連携シンポジウム

【目的】 県内の小学校・中学校・高等学校・大学の英語教育連携に関する課題を協議し、連携強化を図り、これからの英語教育の充実に資する

【対象】 小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭及び大学関係者

【内容】 県外大学等から英語教育に関する有識者を講師とする教育講演会。沖縄県教育委員会が認定する「英語授業マイスター」を含め、小学校から大学までの各校種からシンポジストが参加

し、課題解決に向けての手立てを話し合う。

・英語でお仕事プロジェクト

【目的】 英語関係に携わる職業人の講話を聴き、将来の職業選択に役立たせる

【対象】 中学生及び高校生

【内容】 英語関係に携わる職業人講話

【高等学校】

高校英語担当教員対象として①教育課程説明会を、中高英語担当教員対象の合同研修として②高校入試分析説明会、③英語担当中高連携研修会、④英語能力判定テストフィードバック説明会、⑤教育講演会、⑥英語小中高大連携シンポジウムを実施している。研修会は、県の「英語教育改善プラン」の共有の場としても活用している。今後もこれらの研修を継続的に実施し、目標値達成を図りたい。

① 教育課程説明会

令和元年度から3カ年かけて県立高校全英語科教員対象に主に新学習指導要領に関する教育課程研修会を県内3地区で実施している。本県生徒の英語力の推移、教員の英語力の状況、留学事業等に関する行政説明等を行うとともに、テーマに基づくグループ討議を行い、協議内容の共有を通して全体的な授業力向上に努めている。

② 高校入試分析説明会

県内7地区において、全ての公立中学校、県立高校より英語担当教員1名が参加する高校入試分析会を実施し、3技能(読む、聴く、書く)の向上に繋がる高校入試のありかたについて協議し、各学校での授業改善に取り組んでいる。

③ 英語担当中高連携研修会

県内6地区において実施する研修であり、県内全ての中学校及び高校から1名の教員が参加し、中高英語担当者の連携を通して英語教育の充実を図る。異校種の授業観察や中高教員間の意見交換等を行い、本県英語教育の課題の共有や対応策を協議する。令和元年度から小学校の授業観察も加え、連携校種を小学校、中学校、高等学校に拡大した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行への対応としてビデオ・オンデマンド研修とした。令和3年度もビデオ・オンデマンドでの研修実施を予定している。

④ 英語能力判定テストフィードバック説明会

英検協会の英語能力判定テスト(英検 IBA)の結果について、外部有識者(県内大学教授)に分析を依頼し、生徒の技能別傾向について理解を深めるとともに、今後の指導の充実に資することを目的として実施する。当該テスト受験校(今年度は全県立高校)より英語科教員1名が参加する。令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行により中止となったが、令和3年度はビデオ・オンデマンドでの実施を予定している。

⑤ 教育講演会

毎年、県外大学等から英語教育に関する有識者を招聘し、教育講演会を実施している。

⑥ 英語小中高大連携シンポジウム

県内の英語教育関係者を対象に実施するシンポジウムで、県内の小学校・中学校・高等学校・大学の英語教育連携に関する課題を協議し、連携強化を図り、これからの英語教育の充実に資する。沖縄県教育委員会が認定する「英語授業マイスター」を含め、小学校から大学までの各校種からシンポジストが参加する。

4 成果指標に基づく成果の検証

成果指標については、基本的に「英語教育実施状況調査」を基本とするが、各種研修会でアンケートも指標の一つとする。特に「中学校英語 STEP UP」については、第2回の研修会で成果報告を行い、テストと授業における改善点の資料提出を求めるとともに、その結果を指標の一つとする。

また、市町村、教育事務所、義務教育課が行っている学校訪問から授業改善状況を把握する予定である。

5 成果の普及

上記における取組の成果や資料等は、基本的に県のホームページに掲載を予定している。

加えて、教育事務所を通じて、市町村教育委員会、学校への周知や、研修会等で資料の周知する従来の方法等を通して、県内の普及を図っていく。

また、映像資料については、県立総合教育センターと連携し、県の教育コンテンツ等に一定期間視聴できるようにし、コロナ禍や離島勤務により研修会に参加できない教職員でもいつでも情報が得られるようにする予定である。

6 実施日程(予定)

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回英語小中高大連携委員会(英語教育改善プラン検討委員会) ・第1回国際交流推進委員会 ・第1回教育事務所等英語教育担当指導主事会(実施事務局)【今年度の計画確認や検討等】 ・中学校授業改善アドバイザー研修会(5教科) ・「English Project チーム」定例会① 【方向性の確認・課題・情報共有】 	<ul style="list-style-type: none"> 県内大学教授・小中高の校長・県立・義務教育担当主事 県内大学教授・米国総領事館等の外部専門機関・JICA 沖縄・小中高の校長・県立・義務教育担当主事 県内英語担当指導主事 県内指導主事
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語能力判定テスト【英研 IBA】(中学校 6,732 名対象)実施 ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) ・「English Project チーム」定例会② 【情報交換・次年度施策検討①】 ・小学校英語専科教員連絡協議会① 	<ul style="list-style-type: none"> 日本英語検定協会 英語専科・推進リーダー等 県内指導主事
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・高校入試分析研修会(全6地区)(中学校・高校) ・ALT コーディネーター研修会 ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) ・中学校授業力アップ研究会(4地区) ・中学校英語 STEP UP 研修会(2地区) ・「English Project チーム」定例会③ 【情報交換・次年度施策検討②】 	<ul style="list-style-type: none"> 英語専科・推進リーダー等 学力調査官 大学教授等 県内指導主事
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語授業マイスター発掘プロジェクト(小・中・高) ・琉球大学「小学校教員のための中学校英語免許」免許法認定講習(長期休暇中に実施) ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 県内大学教授等招聘 琉球大学教授等 英語専科・推進リーダー等

	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校英語 STEP UP 研修会(2地区) ・中学校授業力アップ研究会(2地区) ・「English Project チーム」定例会④ 【情報交換・次年度施策検討③】 ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) 	大学教授等 学力調査官
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程(外国語)研修会(全3地区)(高校) ・琉球大学「小学校教員のための中学校英語免許」免許法認定講習 (長期休暇中に実施) ・中学校授業改善アドバイザー研修会(5教科) ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) ・英語でお仕事プログラム(中・高校生) ・「English Project チーム」定例会⑤ 【情報交換・次年度施策検討④】 	県内大学 英語専科・推進リーダー 一等 未定 県内指導主事
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語担当中高連携研修会(6地区)(中学校・高校) ・「English Project チーム」定例会⑥ 【情報交換・次年度施策検討⑤】 ・小学校英語専科教員連絡協議会② ・英語能力判定テスト【英研 IBA】(高校約 13,000 名) ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) 	県内大学教授招聘 県内指導主事
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校英語 STEP UP 研修会(2地区) ・中学校授業力アップ研究会(2地区) ・「English Project チーム」定例会⑦ 【情報交換・授業力アップ研の総括・次年度施策案作成】 ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) 	大学教授等 学力調査官 県内指導主事
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回英語小中高大連携委員会(英語教育改善プラン検討委員会) ・第2回国際交流推進委員会 ・英語能力判定テスト(英検 IBA)フィードバック説明会(中学校・高校) 【オンライン開催】 ・中学校授業力アップ研究会(2地区) ・ALT等の指導力向上研修会 ・中学校英語 STEP UP 研修会(2地区) ・「English Project チーム」定例会⑧ 【情報交換・次年度施策案作成】 ・小学校英語スキルアップ研修会(全6地区) 	県内大学教授・小中高の校長・県立・義務教育担当主事 県内大学教授・米国総領事館等の外部専門機関・JICA 沖縄・小中高の校長・県立・義務教育担当主事 琉球大学教授等 学力調査官 県内大学教授招聘 大学教授等 県内指導主事
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校授業力アップ研究会(2地区) ・「English Project チーム」定例会⑨ 【情報交換・施策案作成】 	学力調査官 県内指導主事

1月	・第2回教育事務所等英語教育担当指導主事会(実施事務局)【今年度の成果と課題、次年度の取組計画等】 ・「English Project チーム」定例会⑩ 【情報交換・施策案修正】	県内英語担当指導主事 県内指導主事
2月	・教育講演会 ・英語小中高大連携シンポジウム ・「English Project チーム」定例会⑪ 【情報交換・施策決定】 ・小学校英語専科教員連絡協議会③	県外大学 県内大学
3月	・「English Project チーム」定例会⑫ 【令和3年度のまとめ・次年度計画】	県内指導主事

7 実施体制概要(予定)

<主な実施体制>

(1) 検討委員会(外部の有識者や教育委員会、教員等による委員会)

「英語小中高大連携委員会(英語教育改善プラン検討委員会)」

【構成】

- ・人数 11 名
- ・構成員の所属・専門分野等について
委員長:高等学校校長、副委員長:中学校校長、委員:大学教授、準教授、講師、小学校校長、教育庁英語担当指導主事、教育センター英語担当指導主事

【活動内容について】

- ・英語教育改善プランの検討
- ・英語マイスター発掘プロジェクトの基準設定及び確認
- ・中高連携公開授業についての協議
- ・教育講演会:小中高大シンポジウムについての協議
- ・英検 IBA フィードバック説明会についての検討

(2) 実施事務局

①「教育事務所等英語教育担当指導主事会」

【構成】

- ・人数 10 名
- ・構成員の所属について
義務教育課担当主事、県立学校教育課担当主事、県立総合教育センター担当指導主事(英語・ICT 担当)、国頭教育事務所担当主事・中頭教育事務所担当主事・那覇教育事務所担当主事、島尻教育事務所担当主事、宮古教育事務所担当主事・八重山教育事務所担当主事、

【活動内容について】

- ・各種研修会の実施
- ・教諭への指導助言
- ・学校訪問

②「English Project チーム」

【構成】

- ・人数 6 名
- ・構成員の所属・専門分野等について
義務教育課担当指導主事(小中)、・那覇教育事務所指導主事、那覇市教育委員会担当指導主事、浦添市教育委員会担当主事、那覇市教育研究所担当指導主事

【活動内容について】

- ・効果的な小中連携の推進
- ・中学校の英語力向上についての施策検討
- ・小学校外国語教育の推進

③「小学校外国語教育推進チーム」

【構成】

- ・人数 45 名(予定)
- ・構成員の所属・専門分野等について
小学校英語専科教員

【活動内容について】

- ・評価に関する研究
- ・効果的な教科書の活用方法の研究
- ・実践的な教科指導の推進・波及

(4)実施事務局と検討委員会の連携方法、役割分担について

①「英語小中高大連携委員会(英語教育改善プラン検討委員会)」

大学教授等の外部機関と連携しながら、英語教育に関する県の取り組み、課題及び施策を協議・検討する。その意見等を施策に反映させ、各機関、実施事務局及び開発チームの取り組みの方向性を示す。

②「教育事務所等英語教育担当指導主事会」

英語教育に係る県の施策や課題、また、各地区における課題等の共通理解を各機関と図る。各機関では、課題解決に向けた各種研修会等で実施し、取組計画及び成果と課題を報告する。

特に、中学校のテスト作成や評価基準の設定に課題があることから、大学講師を講師とした「中学校英語 STEP UP 研修会」を年間2回開催し、第1回と第2回の研修会に繋がりを持たせ、テスト作成と評価の研修会を年2回開催する。その成果と課題を中心に報告し、課題解決に向けて手立てを検討する。

また、ICTの活用については、教育センターと連携し、効果的なICT活用に関する研修会の実施を図る。

加えて、「English Project チーム」と「小学校外国語教育推進チーム」で出された施策や方向性の案を、この会で検討する。

③「English Project チーム」

主に小中連携の促進と中学校の英語力向上に係る施策検討チームと位置づける。那覇地区の指導主事を中心に構成し、月1回の定例会において、現状分析、情報交換と小中の英語力向上に向けた施策の検討を行っていく。そこで出された案を、「教育事務所等英語教育担当指導主事会」でさらに検討し、令和4年度の県の施策等に反映させる。

④「小学校外国語教育推進チーム」

小学校英語専科教員で構成されたチームで、主に小学校外国語に関する実践的な教科指導の研究を行う。全体会は年3回を予定しており、そこで得られた知識や実践的な教科指導法を校内や近隣校に周知・波及していく。

また、教育事務所主催の「小学校スキルアップ研修会」において、事務局と連携を図りながら、研修会の講師としてその成果の周知を図る。

8 小学校教諭の新規採用に係る取組

小学校 専科	指標内容	2020	2020	2021	
		目標値	達成値	目標値	達成値
	新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 (%)	5%	5%	10%	
	(人数)	10	11	20	

[次年度の取組]

教員採用試験に、一定の英語力や中学校英語免許所持者には加点をする制度を平成30年度から盛り込んでいる。また、令和2年度から小学校英語専科の要件を満たす加点を10点から15点に引き上げ、規準も「CEFER B2」の得点にそろえた。改善を図りながら、一定の英語力を有する者の割合を引き上げていく。また、地元の大学の協力により、小学校教員養成課程においてコアカリキュラムを設定し、英語教授法の単位取得を盛り込んでいる。引き続き、大学や学校人事課と連携して、一定の英語力を有する新規採用者の割合を増やしていく。

(令和2年度から適用)

- ① 小学校教諭等又は特別支援学校小学部教諭等を受験する者で、次のいずれかの資格を有する者
 - ア 英語に係る中学校又は高等学校教諭普通免許(15点)
 - イ 実用英語技能検定準1級以上、TOEFL iBT® 72点以上又は TOEIC® Listening & Reading Test 785点以上のいずれか(15点)
- ② 中学校教諭等「英語」又は高等学校教諭等「英語」を受験する者で、次のいずれかのを出願の2年前の4月1日以降に受験し、取得した者
 - ア 実用英語技能検定1級、TOEFL iBT® 95点以上又は TOEIC® Listening & Reading Test 945点以上のいずれか(20点)
 - イ 実用英語技能検定準1級、TOEFL iBT® 72点以上又は TOEIC® Listening & Reading Test 785点以上のいずれか(5点)

沖縄県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
		公表(%)	30.0%	18.6%	40.0%	20.4%	50.0%	60.0%	60.0%	70.0%	70.0%	
		達成状況の把握(%)	50.0%	47.7%	60.0%	60.2%	70.0%	80.0%	80.0%	90.0%	90.0%	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60.0%	55.9%	60.0%	51.9%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3回	1.8回	3回	2.6回	3回	3回	3回	3回	3回
			コミュニケーション英語Ⅱ	3回	1.5回	3回	1.8回	3回	3回	3回	3回	3回
			コミュニケーション英語Ⅲ	3回	1.5回	3回	1.5回	3回	3回	3回	3回	3回
			英語表現Ⅰ	5回	2.6回	5回	2.2回	5回	5回	5回	5回	5回
			英語表現Ⅱ	5回	3.7回	5回	3.5回	5回	5回	5回	5回	5回
			英語表現Ⅲ	5回	3.7回	5回	3.5回	5回	5回	5回	5回	5回
		○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	5回	1.3回	5回	2.2回	5回	5回	5回	5回	5回
			コミュニケーション英語Ⅱ	5回	1.7回	5回	1.8回	5回	5回	5回	5回	5回
			コミュニケーション英語Ⅲ	4回	1.6回	4回	1.7回	4回	4回	4回	4回	4回
			英語表現Ⅰ	5回	2.0回	5回	2.3回	5回	5回	5回	5回	5回
			英語表現Ⅱ	5回	2.9回	5回	2.6回	5回	5回	5回	5回	5回
			英語表現Ⅲ	5回	2.9回	5回	2.6回	5回	5回	5回	5回	5回
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									3回
			英語コミュニケーションⅡ									
			英語コミュニケーションⅢ									
		論理・表現Ⅰ										5回
論理・表現Ⅱ												
論理・表現Ⅲ												
○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ										5回	
	英語コミュニケーションⅡ											
	英語コミュニケーションⅢ											
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75.0%	61.2%	75.0%	63.1%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%	75.0%		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	78.0%	77.4%	80.0%	82.8%	83.0%	83.0%	85.0%	85.0%	90.0%	90.0%		
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	52.0%	46.3%	54.0%	44.3%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%		

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	98.0%	92.5%	98.0%	98.6%	100%	100%	100%	100%	100%
		公表(%)	70.0%	16.3%	50.0%	20.7%	50.0%	60.0%	60.0%	63.0%	63.0%
		達成状況の把握(%)	98.0%	49.0%	60.0%	44.8%	60.0%	70.0%	70.0%	75.0%	75.0%
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80.0%	69.3%	75.0%	72.3%	75.0%	75.0%	75.0%	78.0%	78.0%	
		③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回
		ライティングテスト(回)	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	73.0%	78.7%	80.0%	79.8%	83.0%	83.0%	83.0%	85.0%	85.0%		
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	51.5%	55.0%	53.0%	55.0%	55.0%	55.0%	58.0%	58.0%		
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	37.3%	45.0%	34.5%	37.0%	37.0%	37.0%	37.5%	37.5%		

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				80.0%	90%	100%	100%	100%	100%
		公表(%)				80.0%	90%	100%	100%	100%	100%
		達成状況の把握(%)				80.0%	90%	100%	100%	100%	100%

独自	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
	①	海外留学・交流派遣人数(高校)	320	320	320	231						